

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2023年(令和5年)11月15日号 No.1941

目次

■ 2022年のロシア極東港湾の貨物量	1
■ 統計速報	8
2023年1～9月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／8	
2023年1～9月の日ロ貿易／9	
■ エトセトラ	12
情報提供セミナー「制裁下ロシアにおける事業活動」のご案内／12	
■ トピックス	12
ジョージアとスタートアップ支援で協定／12	
ファイテック、カザフと消防分野で協力文書を締結／12	
アークティック2、米制裁対象に／13	
経団連、ウクライナ経済復興特別委員会を設置／13	
ロシア、日本との非核化協力協定を一方向的に終了／13	
ウラジオストクとの航路、寄港先を小樽に変更／13	
日本ペイントHD、カザフ企業を買収／13	

2022年のロシア極東港湾の貨物量

はじめに

経済速報2023年3月15日号(No.1919)では、ロシア港湾の取扱貨物量の2022年の実績を紹介した。今回はロシア極東港湾の実績を図表にまとめてお届けする。

概況

昨年1年間のロシア極東港湾(チュコト自治管区を除く)の取扱貨物量は、2億2,781万tと、前年と比べ1.5%の増加となった。このうち、ドライカーゴは1億5,395万tと、前年と比べ3.5%の増加となった。一方、液体カーゴは7,385万tと、前年と比べ2.3%の減少となった。

取扱貨物量は2008年には8,041万tだったが、貨物をアジアにシフトさせる中、コロナ禍で経済活動が一時ストップした2020年も含め、一貫して増え続け、この14年間で2.8倍に拡大した。

昨年は、ロシアの軍事侵攻と西側諸国の制裁で、欧米系の船会社の船が寄港しなくなったり、コンテナの滞留問題が深刻化したりするなど、予想もしなかった事態に翻弄された1年だった。ロシア西部方面の物流制限によって、これまで欧州方面に運ばれていた貨物がアジア方面に流れたことで、新たな市場を求めるとの玄関口として、これまでにないほど極東港湾は大きな注目を集めた。取扱貨物